

長崎市提案型協働事業提案企画書

団 体 名	特定非営利活動法人 心澄
提案事業の名称	ひきこもり本人と会えた時のためのハンドブックと講座事業
提案事業の目的	<p>◆今提案事業の目的</p> <p>①ひきこもり者の減少や長期孤立化予防</p> <p>②ハンドブックを元に民生委員・児童委員に講座とワークショップを行い、ひきこもりへの対応のスキルアップを図る</p>
課 題 の 緊急性・重要性	<p>◆現状</p> <p>近年、ひきこもりやニートは社会問題として広く認知されてきたが近代になり出てきた課題のため、対応方法や関わりなどは周知されていない。保護者への関わりなどは広まってきている部分もあるが、第三者から当事者への有効な関わり方については広がっているとは言い難い。そのため、第三者からの不適切な関わりが、ひきこもりを長期化させてしまう要因になっていることも多い。</p> <p>◆当事者の長期孤立化</p> <p>学校や会社など一般社会で不適應をおこし、プライベートでも不適應をおこしたことで、他者や社会への不安などが強く表れるようになっていく。その結果、家や部屋で孤立しひきこもりが長期化していき、ひきこもり者と出会うことすら難しくなっていくのである。</p> <p>◆支援者と当事者の関わり方のミスマッチ</p> <p>一般的な育ちをしてきた方にとって、真面目な話は可能であり問題ないことが多い。だが、ひきこもり状態になる方々にとって真面目な雰囲気や話は精神的負担が大きい事も多い。そして、従来への対応のような支援者が本人が話し出すのをゆっくり待つことも精神的負担である場合も多い。</p> <p>そのため、心ある支援者が当事者と真摯に向き合った結果、ひきこもりを長期化させてしまうこともある。</p> <p>◆ひきこもり増加による将来予想</p> <p>ひきこもりが長期化し養育する立場にあった保護者が他界すると、生活保護の可能性が高まる。また、ひきこもりの長期化は神経症状が出ることも多く精神医療の治療も必要になり、更に、体を動かしていないことから身体症状が早期に出てくることも予想される。その結果、福祉や医療の面から財政が圧迫されていくことが予想される。</p>

協働の必要性	<p>◆連携なしでは困難なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ①本市の民生委員・児童委員への講座 ②行政・民間・当事者等の視点と経験を活かした、多角的観点からのハンドブック作成 ③ハンドブックへの一般市民からの信頼 <p>◆事業終了後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ①今事業で行った講座を、本市が行っている出前講座として定着させる ②本事業をきっかけに、協働課と当団体（民間）の長期的計画と実施
協働による相乗効果	<ul style="list-style-type: none"> ① 民生委員・児童委員で止まっていた当事者や支援者としての悩みなどが若年者の専門機関と共有できるキッカケ作りとなる ② 本市が若年者に対しての対応について、支援者から相談を受けた時のアドバイスとして活用できる ③ 本市と民間団体（ひきこもり支援）の初の協働事業となり民間と行政の連携が密になる
協働の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> 1 提案団体が果たそうとする役割 <ul style="list-style-type: none"> ① 当事者との関わりのノウハウ提供 ② 民生委員・児童委員への講座の講師 ③ ガイドブック作成や配布、作成メンバー周知など必要な業務全般 2 本市に期待する役割 <ul style="list-style-type: none"> ① 民生委員・児童委員への講座準備 ② ハンドブック作成協議 ③ ハンドブック作成メンバー周知（家族や当事者） ④ 作製したハンドブックをPDF化し、本市ホームページへのアップ
提案事業の内容	<p>1 ひきこもり本人と会えた時のためのハンドブックと講座事業</p> <p>目標：ひきこもりへの第三者としての関わりのためのハンドブックを作成し、民生委員・児童委員への講座を行い、適切な対応を身に付ける。講座への参加は、500名（本市民生委員・児童委員の半数）を目標とする。</p> <p>成果：①ハンドブック作成 ②ひきこもりへの支援スキル底上げ</p> <p>内容：①ハンドブック作成 行政支援者・民間支援者・当事者・保護者、など多数で集まりハンドブック作成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ②ハンドブック配布 民生委員・児童委員や関係機関へ配布するとともに、一般の方が目にする場所への配布依頼も行う ③講座 作成したハンドブックを基本とし、民生委員・児童委員に対して、ひきこもりへの関わり方の講座とワークショップを行う

	<p>実施日程：①ハンドブック作成のための集まりを4月から9月まで月一回行う。 ②10月から2月まで民生委員・児童委員への講座を行う。講座回数は20回を目標とする。</p> <p>参加予定数：①ハンドブック 行政・民間・当事者や家族：各2名ずつ、合計6名を想定 ②講座：累計500人の参加を目標とする</p> <p>実施場所：当団体事務所</p> <p>予算額：980,370円</p>																																				
<p>提案事業の実施体制</p>	<p>1 統括責任者 宮本 鷹明</p> <p>2 個別事業責任者 ガイドブック作成責任者： 宮本 鷹明（他作成スタッフ5名） 講座責任者： 宮本 鷹明</p> <p>3 事業に当たっての専門性やノウハウ ひきこもり支援において、団体発足4年半と短いながら専門性を持った支援を行って聞いていると自負。その根拠として、福祉系の専門学校を卒業した者や臨床心理士保持者が常勤として勤務。また、数週間に及ぶ内閣府主催の研修にも意欲的に参加するなど、専門性を磨き続けている。また、団体として当事者対応4500件以上（訪問除く）の実績を持ち、年10回程度の講演実績も持っている。 当団体としてではないが、責任者はホームレス支援においてガイドブック作成の経験を持つ。</p>																																				
<p>事業スケジュール</p>	<table border="1" data-bbox="432 1220 1428 1563"> <thead> <tr> <th></th> <th>4～8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11～2月</th> <th>3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハンドブック作成協議</td> <td style="background-color: yellow;"></td> <td style="background-color: yellow;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ハンドブック作成</td> <td></td> <td style="background-color: red;"></td> <td style="background-color: red;"></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ハンドブック配布</td> <td></td> <td></td> <td style="background-color: yellow;"></td> <td style="background-color: yellow;"></td> <td style="background-color: yellow;"></td> </tr> <tr> <td>講座</td> <td></td> <td></td> <td style="background-color: red;"></td> <td style="background-color: red;"></td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業振り返りと今後の協働 打合せ</td> <td></td> <td></td> <td style="background-color: yellow;"></td> <td></td> <td style="background-color: yellow;"></td> </tr> </tbody> </table>		4～8月	9月	10月	11～2月	3月	ハンドブック作成協議						ハンドブック作成						ハンドブック配布						講座						事業振り返りと今後の協働 打合せ					
	4～8月	9月	10月	11～2月	3月																																
ハンドブック作成協議																																					
ハンドブック作成																																					
ハンドブック配布																																					
講座																																					
事業振り返りと今後の協働 打合せ																																					
<p>事業の展望及び今後の活動展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆本市と当団体と協力してひきこもり支援計画を立てる。その理由として、今事業により、支援を受ける気持ちになる当事者が増えることが期待され、その時の出口が必要になる。そして、当事者が外に出てきたときに“支援機関に行くためのスキルアップ”が必要になることが多い。その支援のために継続して協働することが必要と考えており、今事業に今後の協働打合せも含む。 ◆本市と当団体との協働により、次は、他のひきこもり支援団体との協働も打診していき、連携の幅を広げていく。 ◆今事業で行った講座を、長崎主催の出前講座として位置づける。位置づけた時の講師は、当団体の専門スキルを持ったスタッフが担うこととする。 																																				